



ふくせん兵庫県ブロック 宝塚地域で多職種協働研修会を開催

去る2月24日、ふくせん兵庫県ブロックは、兵庫県地域リハビリテーション支援センターが主催する多職種協働研修を共催という形で集合・オンラインのハイブリッドで開催致しました。県の地域リハビリテーション推進研修ということで今回は宝塚での開催となり、会場参加17名、オンライン参加31名の参加となりました。職種としてはケアマネ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保健師、介護福祉士、行政職員と多岐にわたり、会場では後半にグループワークも行われました。

今回は、定期的に行われている地域リハビリテーション推進研修の題材として福祉用具に焦点を当てて頂き、介護現場において福祉用具がどのような役割を担っているのかを各職種の方に理解していただくことを目的としていたが、制度改正の観点、実際の福祉用具専門相談員としての意見や今後の課題を伝えることができ一定の満足をいただいた。

また参加した福祉用具専門相談員にとっては多職種との視点の違い、「協働」の大切さを学ぶことができた貴重な研修となった。

以前よりこのような多職種による合同研修の開催を希望しておりましたが、今回、兵庫県地域リハビリテーション支援センターの事業で、県のリハ職団体(PT/OT/ST)とも関係性が持てたことも来年度以降の活動において非常に有益なこととなったため、この関係を強固なものとしていきたい。

内容	テーマ	講師
講義 1	「令和6年度制度改正に見える福祉用具の現状と今後」	兵庫県立リハビリテーション中央病院 長倉 寿子氏 (前厚労省老健局高齢者支援課指導官)
講義 2	「福祉用具活用における多職種協働の意義」	全国福祉用具専門相談員協会 兵庫県ブロック長 浦野 徳也氏 (株)ポート・リハビリサービス 代表)
グループワーク	「引き出せ生活行為の可能性！福祉用具の活用から考えよう！」	

講義1では昨年度まで厚生労働省老健局高齢者支援課において福祉用具・住宅改修指導官をされていた長倉氏により、「令和6年度制度改正にみえる福祉用具の現状を今後」と題し、講義を行って頂いた。参加者が他の職種の方も多かったため、福祉用具専門相談員という職種の役割から今回の制度改正に至るまで非常に分かりやすく解説頂いた。



講義する長倉氏



講義をする浦野氏



グループワーク風景

講義2ではふくせん兵庫県ブロック長の浦野氏が「福祉用具活用における多職種協働の意義」と題し、福祉用具専門相談員に求められている事、安全・質の向上での課題、「協働」の大切さの話をした。福祉用具専門相談員という職種を知らない方や、その専門性や役割に改めて驚かされている方もいた。アンケートには非常に好意的な「今後はもっと福祉用具専門相談員に相談していきます」といった声も上がっていた。

最後に兵庫県地域リハビリテーション支援センター事務局の方々に改めて感謝申し上げます。

受講参加頂きました事業者様(五十音順)

(株)ポート・リハビリサービス

(株)ヤマシタ

(株)ゆずりは

ありがとうございました。